

## 《優秀業績賞》

### KOBE パークレットをはじめとする神戸の都心における道路のリデザイン事業

神戸市建設局 道路部計画課

#### 1 事業概要

将来的な自動車交通量の減少や社会情勢の変化などにより、地域の現状や利用者ニーズと合っていないなどの課題が生じており、既存の道路空間のあり方について、転換を図ることが迫られている。これらの課題に対応するため、本市では、「道路のリデザイン」を掲げ、利用状況に見合った道路空間の再整備を進めている。「道路のリデザイン」とは、これまでの画一的な道路整備から、市民ニーズや地域課題に対応するために、道路の利用環境や周辺の土地利用状況等を十分に分析し、歩行者・自転車・自動車のバランスに応じた「交通機能の最適化」と、憩いや賑わい、景観、交通安全などの「空間機能の向上」を図ることで、道路から「市民生活の豊かさ」を感じられるまちづくりを目指そうとする概念で、本市の今後の道路整備の方針として、積極的に推進している。

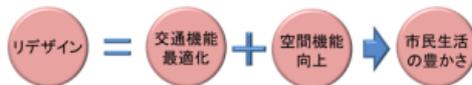


図-1 道路のリデザインの概念

#### 2 道路のリデザイン事例

今回紹介する道路のリデザイン事例の位置図を右図に示す。



図-2 位置図

##### (1) 葦合南54号線

葦合南54号線は、神戸の中心市街地である三宮の目抜き通り「フラワーロード」のすぐ東側に位置し、都心の街区を形成する主要な道路である。

本線は、少ない交通量（約4,500台/12時間）に対して車道幅員や停車帯が広く、歩行者（約8,500人/12時間）にとってゆとりのない歩道空間であるなど、現況道路の幅員構成と利用状況にミスマッチが生じていた。加えて、歩道上には放置自転車が溢れ、歩行者の通行を阻害するとともに、地域の景観を阻害するなどの課題ともなっていた。

平成28年度11月に完成した、最も賑わいのある第1工区（延長約130m）では、単に歩行空間を広げるだけではなく、新たに生まれた空間にベンチなどの施設を整備することにより、歩行者の回遊性や道路空間の快適性の向上を図った。引き続き、南に整備を進め、平成32年度の全線完成（延長約750m）を目指している。



図-3 第1工区整備後

##### (2) 三宮プラッツ

三宮中央通り駐車場への動線であるサンクンガーデンおよび三宮中央通り地下通路は、都心の一等地にありながら、人通りが少ない状況である。これらを有効活用することで、都心の「賑わい」「憩い」の創出を目指している。

新たな魅力スポットになることを目指し、愛称募集（三宮プラッツ）や、ジャズなどの音楽ライブ、トークイベント、日本酒バー等をモデル的に実施している。また、テーブルベンチ、情報掲示板、Free Wi-Fiなどを備えることで、憩える空間の創出を図った。



図-4 H28秋のイベント状況

### 3 KOBE パークレット

#### (1) 概要

「KOBE パークレット」は都心の道路における憩いや賑わい創出の新たな取り組みであり、平成 28 年 10 月から社会実験として、三宮中央通りに 3 基設置した。

パークレットとは、車道の一部（停車帯）などにウッドデッキを敷き、ベンチやテーブルを設置することで、憩いや賑わいの場を創出する施設である。サンフランシスコが発祥で世界各国に設置されており、国内でも類似事例はあるが、車道の一部（停車帯）を利用したパークレットは日本初となる。



図-5 KOBE パークレットの構造

#### (2) 民学官の実施体制

設置にあたっては、地元組織である三宮中央通りまちづくり協議会と連携し、デザインにも配慮したものとするため、神戸芸術工科大学の協力を得ながら進めた。

設置後の清掃や花の水やり等の日常管理は、まちづくり協議会が担っている。

#### (3) 利活用状況

- ・様々な用途で自由に利用されていた。例えば、芝生で遊ぶ子どもとベンチから見守る母親、グループ利用でのおしゃべり、テーブルを利用した飲食、スマホ操作をしながらの待ち合わせ等がみられ、街に新たな賑わいがもたらされた。
- ・「快適性」・「利用までの抵抗感」・「安心感（安全性）」・「デザイン性」・「パークレットの今後の展開」について利用者から非常に良い評価を得られた。
- ・利用者数は、644 人/10 時間（3 基計）であり。最も利用者数が多い時間帯は、14～16 時頃で、約 120 人/時（3 基計）であった。
- ・設置前後の歩行者交通量を比較すると、KOBE パークレットを設置していない区間に比べ、設置している区間の交通量が多くなる傾向が確認された。
- ・当初、車道の一部（停車帯）を利用した KOBE パークレットの設置にあたっては、停車帯不足や交通の流れの妨げ等を懸念していたが、設置後に自動車交通量や停車帯の利用状況について調査したところ、大きな影響を与えていなかった。
- ・沿道店舗のアンケートによると、集客効果や賑わい効果等、KOBE パークレットに対する一定の期待が確認できた。これらの効果を更に向上させつつ、街全体が賑わっていきけるよう、KOBE パークレットを活用したイベント開催等を促進していく必要性がわかった。
- ・休憩施設としての機能だけでなく、「第 6 回神戸マラソン」における応援ジャズ演奏のステージや、「神戸ティーフェスティバル supported by Sir Thomas Lipton」における紅茶の無料配布スタンドにも活用され、盛況を得た。



図-6 利用状況



図-7 ティースタンドとしての活用

### 4 今後の展開

KOBE パークレットについては、効果検証結果を踏まえ、まちづくり協議会や交通管理者との調整の結果、平成 29 年度も引き続き設置（1 基は移設）している。今後も、都心を中心に沿道のニーズに合った箇所に展開していく。また、KOBE パークレットが持つ憩い・賑わい機能と地域の活力が相乗効果を発揮できるように、イベント等の活用を広げていく。

こういった神戸の都心における道路のリデザイン事業を進めることで、街全体の賑わいにつなげ、都心の回遊性向上を図っていきたい。